

この一年をふり返って

山下 弥生
(1993年研修参加)

第11回京都府女性海外研修で訪れた3ヶ国、特にロシアを訪問出来たことは、私の日常生活の「偏見」を大きく考え直す機会となりました。出合った人達の大自然に育まれた暖かくおおらかな心や、社会の体制が如何に変わろうとも、伝統に誇りを持ち、争えぬ気品を備えた女性達が示した「ロシアが好きなんだ」と言う心は、日を経るほど実感として理解出来るようになりました。「情報化の時代」と言われる昨今、世界の状況を手にとるように知る事が出来る我々ですが、それぞれの国の文化や風土の中で人と出合っただけで、親密な気持ちで手が取り合える体験をさせて頂きました。「交わりて相手を正しく理解する」これこそが「偏見」を打ち破る源であり、行動する勇気をもつことを今回の研修から教えられました。事後の私達のグループは、各自がそれぞれの立場で多忙ではありますが、グループを「Red Arrow」と名付けました。シベリア鉄道の特急夜行列車の名前です。未知へのときめき・緊張・冒険・感動・忘れられない夜汽車、ある時はガタンゴトンと横揺れに、またスピードをあげてサント・ペテルブルグを目指して大高原を一途に走り続けたのです。あたかも、私達の今後のライフ・スタイルのように、いつまでも元気で乗り合わせたい願いを

込めて情報交換をはかって研鑽しています。

春にはロシア国立レニングラードバレエ団大阪公演で「白鳥の湖」を観劇し、通訳のヴァタリー・シーレイ氏と懐かしく再会、ロシアの芸術に感動し旅の思い出を再確認しました。

京都府とレニングラード州の姉妹提携の実現に、熱い期待と、何かお手伝いがさせて頂きたい思いで一杯です。

政治や言葉の壁を乗り越え、主婦の立場からまた自らの仕事を通して、先ず、日本に在住する外国人の人々の文化や暮らしを理解し、京都の文化をアピールしながら、

仲良く手をつないでゆきたいと願っています。

楽しく語り合い京都を愛する「なかま」の輪が出来ました事を心から誇りに思います。



「名は体を表す」といわれていますが、あけぼの」とい言葉には、心よかな期待と活動の意欲をかもし出す秀麗な気があります。特に女性の感性が育まれ、安心、安全の男女共生社会の実現のために、各分野から海外研修に参加された京の女性達の活動のよりどころとして、情報交換、交流、研修の組織に「ヒタタリ」の名称とつけています。

この度は「てるび」と国際性豊かな楽しい機関誌も創刊され、個人から組織へと交流の輪が広がり、明日に向かって活動する京の女性達の要として発展されることを期待しています。

(京都府婦人の船同窓会)

「てるび」に期待して

小泉 和子

京のあけぼの

高島 シズ子

京都府が京の「あけぼの」という女性の会を発足されたと聞いて、当時私は目の前が明るくなったものでした。京都の各女性団体の代表が集まったの研修旅行も開催され、私も平成元年ヨーロッパ研修に参加致しました。私は、商工会議所婦人会代表という事で経営者の立場から各国の団体活動を見学させた戴きました。欧州諸国では男女平等が当然の如く、生活して居る中に於いてもアル中の夫に暴力を振られてかけ込みに母子共に保護される人、妻に逃げられて子供連れで働かざるを得ないという男性家族の保護、養老院では明るく楽しく自分の趣味を活かして刺繍をする、絵を画く、機織りする等々のグループ活動がなされています。日本でもかく有らねば、という思いに陥りました。同行の丹後の方で「土地を提供していいですよ」といつて下さる方も居られました。現地では「税金は高いけれど施設が整っているから不満に思っている人は居りません」といわれる方が多い事に羨ましさを感じました。高齢化時代の日本にあっても是非そうあって欲しいと思います。男女を問わず、年寄りも年寄りなりに楽しく生きて行ける場所を一つ一つ造っていく努力と呼びかけをしていかねばならないと思います。その内にか誰かがやってくれるだろう等と思っているのでは私達の今生きていく間には間に合わないと思います。今やらねばならない、という思いの結果が京のあけぼのの真の意味ではないかと私は思います。

(京都商工会議所婦人会)



●●● 京都府名誉友好大使との交流 ●●●

留学生による家庭料理の講習会



会場：京都府婦人センター ▶

今回は日本留学を終了した女子学生の希望もあって、ゆかたの着方を覚えてもらいました。

◀ 会場：ウイングス京都

今回はチキン・アドボ鳥肉煮込み料理で、フィリピンの代表的家庭料理でした。
今後2ヶ月に1回程度実施予定です。

留学生へ日本伝統の着物着付講習会



ロシアの縁

武田 公子

「二十一日は空いてはりますか? 時代祭と鞍馬の火祭見物」と誘われたのは、レッドアローの会からでした。モスクワから乗った夜行列車の名をとって私達九名のロシア研修グループは事ある毎に集まります。そして思い出話にひたるひとは、各自忙中閑をを楽しむ心地、団長を先頭に全員がとまごやかに過ごして来たこの一年でした。

ロシア研修では、彼我の国力、社会事情、人情性、人情等大いに啓蒙され、民間外交増進の必要性を学びましたが、私はグループの誕生をこよなく喜び、冒頭のお誘いにすぐ応じたのは勿論でした。

(京都市地域女性連合会)

マナーを破る大切さ

稲味 史子

私たち女性団体にとって、自立、男女平等社会の実現などに向けた学習活動はもちろんですが、その一方で文化や芸術で豊かな情操を養うことも重要です。そうした意味で九月下旬、城陽市では初の元宝塚スターを迎えたシャンソン&トークショーをメインに「城陽女性フェスティバル」を催しました。例年の文化祭(作品展示、お茶席、コーヒーコーナー)とひと味変えた形ながら、会員たちの反応は上々。企画、準備、接待から裏方まで進んで分担し、意外なほどの盛り上がりよう。観客の評判も満点で、マナーを破る大切さが体験でき、よい勉強になりました。

(京都府連合婦人会)